

4 2019年度 SGHセミナー実施記録

国内外の第一線で活躍されている方を講師として招くほか、地域の活動への参加などをおして、本校生徒が主体性をもって自由な雰囲気の中で意見交換する場を提供することを目的にセミナーを実施した。今年度は8回の実施（計画は9回）で、のべ123名の生徒が参加した。

第1回「gateway アデレード大学生に聞く」 4月23日（火）放課後

講師 アデレード大学生

内容 鳥取大学ゲイトウェイ・プログラムの一環としてオーストラリアのアデレード大学より学生10名が来校しました。このプログラムはESD（持続可能な開発のための教育）について学ぶことを目的としており、本校では高校教育とSGHを中心とした取り組みについての説明の後、有志生徒と交流会を持ちました。参加生徒からは「言語が違っても心が通えばコミュニケーションがはかれるのだと実感した。もっと英語を勉強したくなった」等の感想がありました。

参加生徒数 23名



第2回「アフリカの田んぼ田植え」 5月25日（土）

講師 智頭町コントリビューションの会 米本 ゆかり 先生

内容 智頭町アフリカの田んぼで田植えをするプログラムに参加しました。本校の参加は5年目になります。鳥取大学の留学生、森のようちえんのこどもたち、地元智頭町の方々と一緒に田植えをしました。その後、豪華な料理とつき立てのお餅を頂きながら留学生、地元の方々との交流を楽しみました。

参加生徒数 15名



第3回「ジェンダー入門 百年前の少女たちの読書空間をのぞいてみよう」 6月14日（金）放課後

講師 青山学院女子短期大学教授 鈴木 直子 先生

信濃むつみ高等学校教頭 竹内 忍 先生

内容 鳥取県と青山学院大学の包括連携協定に基づく出張講義として行いました。宮沢賢治や尾崎翠を例に、百年前の教育の男女格差や社会状況について学ぶことにより、現代の私たちの生き方を考える機会となりました。

参加生徒数 18名



第4回「UN Women ジェンダー平等を実現しよう」 6月17日（月）放課後

講師 UN Women 日本事務所職員・資生堂社会価値創造本部職員

内容 講演とワークショップにより、UN Women の使命や資生堂での取組を学ぶとともに、貧困や教育など SDGs に示されるさまざまな課題をジェンダー平等からみることによって、今後のよりよい社会をつくる視点を得ることができました。「思索と表現」で探究学習に取り組む生徒にとって、プロジェクト参加のための研究を深める場となりました。

参加生徒数 19名

第5回「Helping others」 8月2日（金）

講師 アメリカ合衆国スタンフォード大学 ヨナス・エドマン 先生

内容 英語による授業形式で行われ、“Helping others”というタイトルの教材をもとに様々な状況を想定して「自分ならどうする？それはなぜ？」という問いに生徒同士で話し合い、意見を共有し合うというものでした。授業の最後に、エドマン先生が「この授業のポイントは、どの対応（行動）が正解かではなく、何故そうしたいと思うのかを考えることだ」とおっしゃっていました。参加生徒からは「『人助け』は良い行動であると思っていたが、状況が複雑になると果たしてそれが正しい行動なのか分からなくなった。一つ一つの行動に責任を持っていきたいと思った」等の感想があがりました。

参加生徒数 15名



第6回「アフリカの田んぼ稲刈り」 9月21日（土）

智頭町アフリカの田んぼ稲刈りへの参加を予定していましたが、悪天候のため中止となりました。地域の方が収穫されたお米を12月の保護者懇談期間中に国際理解バザーとして校内にて販売しました。

第7回「わたしがみたラオス～自らをふりかえる～」 10月31日（木）放課後

講師 本校地歴公民科 中村 秀司 先生

内容 本校の中村先生が八月に参加したラオス海外研修の様子や海外での国際協力や開発教育のことなどをテーマにして、ワークショップ形式で行われました。

参加生徒数 7名



第8回「縦の人権と横の人権」 11月21日（木）放課後

講師 日高 義博 先生（専修大学理事長）

内容 人権問題講演会の講師である日高先生を囲み、人権問題に強い関心を持つ生徒や法学系の進路を志望する生徒などが座談会形式で討議をおこないました。

参加生徒数 17名



第9回「SDGsと開発教育」 2月6日（木）放課後

講師 山中 信幸 先生（川崎医療福祉大学 教授）

内容 SDGsを題材にした体験型のワークショップをおこないました。世界で起こっている水の偏在について動画を視聴して考えたほか、参加者の額にシールを貼った後で仲間ごとに分かれるというワークによって固定観念・思考停止について考えました。参加した生徒からは、自らが個々の問題に対してどう関わっているのかを深く考えた意見が活発に出されました。

参加生徒数 9名



5 海外研修・国際交流実施記録

(1) オーストラリア アデレード大学研修実施記録

1. 研修の目的

「持続可能な社会」というテーマで、オーストラリア・アデレードの地域の特性・取組等を調査・研究し、また日本・鳥取のそれらと比較したり情報を共有したりすることで、グローバルとローカルの両方の視点から、より多様な課題解決への糸口を協調的に探るとともに、そこで必要となる英語力を向上させる。

2. 実施までの流れ

4月26日(金) 国際交流・海外研修説明会

豪・アデレード大学研修、米・バーモント交流、米・スタンフォード大学オンライン研修 (GLC)、韓国春川高校交流、トビタテ留学 JAPAN 等の紹介および内容、趣旨、締切の説明

5月20日(月) アデレード研修 申込

【対象となる生徒】

1. 1・2年に在籍する生徒
2. 研修テーマへの関心が高く、社会的課題への関心、アカデミックな交流への意欲が高い
3. 十分なコミュニケーション能力を備えている（英語を使う積極的姿勢、英語運用能力）
4. グループ内討議や研究において、議論を進めたり研究を進めたりするリーダーシップを備えている
5. 事前・事後研修、研修成果発表会で英語での発表ができる

6月3日(月) アデレード研修申込者への説明会

6月21日(金) 英文 Essay と日本語計画書の提出

Essay (英文) A4用紙2枚程度

- 志望動機 なぜアデレードに行きたいのか。研究内容について、自分の知っていること、現地で知りたいことなど、具体的に何をどのようにやりたいのか。異文化体験の面でやりたいこと、学びたいことは何か。
- 研修後について 研修後、学んだことをどのように自分の今後・将来にいかしていくか、どのように周囲に広げていくか。
- 評価 1 志望動機 2 将来性 3 英語運用能力

日本語計画書 A4用紙2枚程度

- 志望動機
- アンバサダー活動 研修先やホームステイ先で日本や鳥取の良さを発信する活動。どのような活動をやってみようと思うか。
- エヴァンジェリスト活動 研修後、オーストラリアの魅力や体験したことを周囲の人々に伝える活動。どのような活動をやってみようと思うか。
- 評価 1 志望動機 2 アンバサダー活動 3 エヴァンジェリスト活動 4 表現力

6月28日(金) インタビュー審査

- グループディスカッション (英語) SDGs5に関連し、「ジェンダー平等を達成する」ための提案と、グループ内で出された提案に対する質問を行う。
- 評価 1 内容 2 積極性 3 協調性 4 英語運用能力
- グループ面接 (日本語) 研修計画書をもとにした質問と、判断力・思考力を問う質問を行う。
- 評価 1 志望動機 2 研究の具体性 3 積極性 4 協調性 5 表現力

7月5日(金) 選考結果通知 今後のスケジュール説明、研究内容とチーム編成、夏季休業中研究計画

に関する指示

- 7月12日(木) 外部研究発表大会校内予選 説明会
- 7月18日(木) チーム編成、外部研究発表大会校内予選 エントリー締め切り
- 7月25日(木) アデレードでの研修日程確認、鳥取での研究の進め方についての指示
- 8月23日(金) 研究の進捗状況、今後のスケジュールの確認
- 9月 4日(水) 外部研究発表大会 校内予選会
- 9月 5日(木) 研究課題の推敲、承諾書・保健調査書配布
- 9月20日(金) 保護者と生徒への説明会
- 10月1日(火) 日本での研究をまとめたプレゼン発表(各班10分以内で自分たちの研究を英語で紹介)

九月上旬に外部研究発表大会校内予選において、鳥取での研究を早期に英語でまとめて緊張感を持ったプレゼンテーションを行うことができ、多くの先生から質問を受けたり、アドバイスをもらう機会にもなった。研究内容についての問題点、新たな疑問点を見つけることができ、より充実した内容に近づいていったと思われる。

3. 主な内容と特色

平成26年度SGHアソシエイト事業として始まり、本年度は実施7年目となった。本研修は本校のために独自にアデレード大学と連携し計画されたもので、中心となるのは生徒のプロジェクト研究である。研究テーマは例年の『「持続可能な社会」の観点からみる日豪のエネルギー問題』から、『SDGs に関して日本とオーストラリアを比較し、持続可能な視点から考える』とし、より広い視野で様々な分野に渡る研究ができるように変更した。これにより、生徒たちが自由にテーマ設定を行うことができ、より興味関心を持った深い内容が扱えた。

生徒たちは、参加が決定した七月から十月のアデレード現地調査に向け、およそ三か月間をかけた事前準備を行った。研究の中心は街頭調査である。まず、どのような項目でインタビューを行うのか検討し、夏季休業中を中心に鳥取駅や高校周辺で街頭インタビューを実施した。幅広い年代から意見を聞き、そこから見えてくる実態や新たな課題について考えた。どのチームも積極的にインタビューやアンケート、関係施設、団体への訪問を行った。また、放課後等を利用して指導担当教員とのディスカッションを何度も繰り返す中で、自分たちのトピックについての検討がより深まったと思われる。アデレードでは、日本で考えた質問のインタビューを、アデレードの街中やアデレード大学構内で行い、その結果から考察したものをまとめ、研修最終日にプレゼンテーションを行った。アデレードでの現地調査を行うことで、予想と異なる結果もあり、研究の難しさや面白さも感じられたのではないだろうか。帰国後は研究内容をまとめ、さらに継続して研究を行い、校内外で発表を行った。

また、特色としてアデレード大学の英語センター(ELC)でプレゼンテーションに向けてのスキルを学べること、また大学の学部講義に参加できることが挙げられる。この研修の受け入れ先はアデレード大学の専門継続教育機関(PEC)にあり、普通は大学生を対象としている。そのため、原則高校生が大学附属の英語学校で学ぶということはなく、本校はPECが受け入れる唯一の高校であった。

4. 参加者

参加生徒 8名 1年生3名(男子2名、女子1名) 2年生5名(女子5名)

引率教員 2名

1班 研究タイトル“Environmental Education in Australia and Japan”

1年 鎌田 和希 1年 定久 絵美 1年 矢部 琳也

2班 研究タイトル “Suggestion for Better Education of Gender”

2年 大呂 夏希 2年 佐谷 息吹

3班 研究タイトル “The study on Self-esteem”

2年 澤 佳代子

2班 研究タイトル “Effective use of local resources”

2年 荒木 万弥 2年 中原 莉緒

5. 実施後の流れ

10月 アデレードでの調査を踏まえた研究の継続

11月 SGH成果発表会での口頭発表【本校】

12月 SGH全国高校生フォーラム 研究ポスター発表および交流会参加

2月 鳥取県立米子東高校、島根県立出雲高校での研究ポスター発表

3月 WWL・SGH×探究甲子園 研究ポスター発表および交流会参加

4月 アデレード大学生来校（Go Global Japan 事業で鳥取大学の訪問学生が来校）【本校】

4～7月 「思索と表現」で課題研究実施【本校】

5月 海外研修参加説明会で口頭発表【本校】

7月 中学生一日体験事業で口頭発表【本校】

6. アデレード大学研修日程表

10月 4日（金）	鳥取空港集合 14:00 鳥取空港発 15:00 全日空 1102 便 羽田空港着 16:15 国際線へ移動 羽田空港発 22:00 カンタス航空 26 便 【機内泊】
10月 5日（土）	シドニー空港着 08:30 乗り換え（現地時間） シドニー空港発 10:30 カンタス航空 741 便 アデレード空港着 12:10 ホストファミリーと対面 【Homestay】
10月 6日（日）	ホストファミリーと過ごす 【Homestay】
10月 7日（月）	Public Holiday ホストファミリーと過ごす 【Homestay】
10月 8日（火）	9:00-10:45 オリエンテーション 11:00-12:00 大学の講義に参加 12:00-12:45 アデレード大学生とランチ 13:00-15:00 班別研究に関わる英語授業 15:00-16:30 キャンパスツアー 16:30-17:00 ホームステイについての注意事項 【Homestay】
10月 9日（水）	9:00-12:00 班別研究に関わる英語授業 13:00-14:30 原生林ツアー、先住民の文化・環境に関わる研修 15:00-17:00 大学の授業（日本語クラス）に参加 【Homestay】
10月10日（木）	9:00-11:00 班別研究に関わる英語授業 11:00-12:00 migration museum 見学 13:15-14:30 学生とのディスカッション 【Homestay】
10月11日（金）	9:00-10:45 班別研究に関わるプレゼンテーション作成 10:45-12:15 プレゼンテーション 夕方 研修終了式・フェアウェルディナー 【Homestay】
10月12日（土）	ホストファミリーと過ごす 【Homestay】
10月13日（日）	アデレード空港発 18:50 カンタス航空 766 便 シドニー空港着 21:00 乗り換え シドニー空港発 21:50 カンタス航空 25 便 【機内泊】
10月14日（月）	羽田空港着 05:15 国内線へ移動 羽田空港発 09:35 全日空 295 便 鳥取空港着 10:50 解散

English Language Center (ELC) はアデレード大学(the University of Adelaide)のPCEの中にあります。

7. 生徒アンケート結果（複数回答可）

アデレード大学研修 生徒アンケート結果（平成27年度から令和元年度）

	H27	H28	H29	H30	R1
1. 事前研修でやっていて役立った・よかったもの					
リサーチプロジェクトの英語でのスライド発表	75%	71%	78%	25%	100%
外部研究発表大会校内予選（7月）					88%
ALTとの会話練習	92%	64%	88%	13%	25%
事前研修時の英語での意見交換・ディスカッション	67%	50%	79%	0%	25%
アデレード大学の先生の来校説明会	59%	71%	79%	-	-
2. 事前研修でできるようになったこと					
英語を聞きとる能力がついた・向上した	50%	50%	69%	13%	38%
リサーチする力がついた・向上した	33%	57%	66%	50%	100%
自分がリサーチしたテーマについての興味・関心がついた・向上した	83%	50%	81%	50%	100%
自分がリサーチしたテーマについての考えが深まった	42%	43%	68%	50%	100%
アデレードでやること・学ぶことが明確になり、計画や見通しをもって研修に臨めた	67%	50%	72%	50%	75%
英語でプレゼンする力がついた・向上した	33%	29%	44%	25%	75%
外国のこと・異文化に対して関心が増し、理解が深まった	67%	86%	88%	63%	75%
3. アデレードでの研修でよかった・身につくものが多かったもの					
日本語クラスへの参加（プレゼン発表のaudience）	67%	57%	61%	75%	88%
アデレード大学生との交流	75%	93%	95%	75%	100%
英語授業（ポスター作成・プレゼン準備）	58%	79%	79%	88%	100%
英語授業（プレゼンテーション）	58%	64%	73%	63%	100%
4. アデレード研修でできるようになったこと					
英語で話すことに対する態度（積極性）が身についた・向上した	92%	93%	95%	88%	100%
英語で話す能力がついた・向上した	67%	50%	68%	63%	75%
英語を聞きとる能力がついた・向上した	83%	93%	92%	75%	75%
リサーチ・インタビューする力がついた・向上した	67%	50%	80%	75%	50%
自分がリサーチしたテーマについての興味・関心が向上した	58%	50%	64%	63%	75%
自分がリサーチしたテーマについての考えが深まった	75%	36%	75%	50%	75%
英語でプレゼンする力がついた・向上した	58%	57%	61%	50%	100%
外国のこと・異文化に対して関心が増し、理解が深まった	92%	93%	96%	88%	100%
日本や鳥取のことをそれまでと違った視点でとらえることができた（広い視野を獲得した）	92%	57%	88%	75%	100%
自分の進路や将来のこと、生き方などについて考えることができた	58%	64%	66%	63%	100%
5. 研修を終えて、今後どのようなことに積極的に取り組みたいと思いますか。					
英語の授業	75%	71%	79%	38%	88%
授業以外の英語学習	83%	71%	79%	63%	88%
ALTや留学生など外国の人との会話や交流	83%	71%	82%	75%	75%
海外のことなどを扱ったセミナーやイベントへの参加	33%	21%	41%	50%	63%
その他、自分の視野や見識を広げるセミナーやイベントへの参加	33%	79%	81%	63%	75%
研究したことの継続（鳥取や世界の情報収集など）	17%	21%	51%	50%	75%

例年になく、どの項目においても肯定的な回答が多く見られた。参加生徒は研究を通じた異文化理解に意欲的に取り組んでおり、国内外で行った活動をすべて自分の力にするべく吸収している結果だと思われる。また、その根底には、学校全体が国際交流に積極的に参加しようとする雰囲気がある。

1、2の事前研修では、研究をどのようにすすめていくのか、その手法についての学びがうかがえる。これは、参加決定を例年より早め、事前準備に多くの時間を割くことができた結果だと考えられる。

3、4の現地研修では、体験したことがすべて、興味関心や考える力の向上につながっている。英語を用いた積極的な関わりに加え、広い視野や生き方についての考えを獲得できたと回答した生徒が100%だったことは非常に大きな成果と言える。

5の今後に関しては、英語に囲まれた生活で自分に足りないものが見つかり、それに向けてさらに努力しようとする姿が見られる。自主的に様々なイベントに参加する生徒や研究内容を継続して考える生徒も多く、来年度以降の研修に対しても積極的な関わりを持って継続できるものと期待される。

(2) 大韓民国 江原道春川高等学校定期交流実施記録

1 目的

- (1) 2002年の春川高等学校との姉妹校結縁以来続いている定期交流を促進し、両校の関係がより深まることを目的とする。
- (2) 日本と大韓民国及び鳥取県と江原道との親善に寄与する。
- (3) 交流と異文化体験により、生徒の国際感覚を養成する。
- (4) 鳥取西高と春川高校との相互理解を深め、互いに切磋琢磨しながら発展をめざす。

2 鳥取西高等学校訪問団

大人（教職員・PTA）4名 / 生徒 6名

校長 山本英樹 / PTA 会長 西川昌孝 / 教諭 坪田淳也 / 教諭 桃木貴子

生徒 2-2 藤田奈々子 / 2-4 段塚琴登 / 2-6 長野光結

2-7 河合衣央 / 1-1 池本梨乃 / 1-5 林 和花

3 日程

日時	内容	
10/15 (火)	6:30	関空へ出発
	10:30	関空到着
	12:35	出国（大韓航空）
	14:15	仁川空港到着
	17:00-18:00	春川高校到着、歓迎式（校長先生、生徒代表挨拶） ホストファミリーとの対面、記念撮影、記念品贈呈
	18:30	（職員は夕食会）
10/16 (水)	8:20	教職員：ホテル出発（校長室へ） 生徒：登校（各教室/運営委員室へ）
	9:30	歓迎式典（校長先生、生徒代表あいさつ（生徒は英語で）） 生徒：出し物（5分程度）
	10:30-11:20	生徒：部活動に参加 教職員：部活動見学
	11:40-12:30	生徒：4限目授業に参加 教職員：職員室へ
	12:30	昼食
	13:30-15:20	生徒：5,6限目授業参加 教職員：授業見学、学校紹介、施設見学、来年度の日程協議
	15:20-	生徒：帰宅 教職員：市内見学等

日時		内容
10/17 (木)	7:30-9:40	春川高校に到着、ソウルに移動
	9:40 -18:40	終日観光（ソウル） 9:40-11:30 昌慶宮 観覧 12:00-13:20 昼食（東方名主） 13:30-15:00 南山コル韓屋村 観覧、韓服体験 15:30-16:40 明洞 散策（自由時間） 16:40-18:40 春川へ移動
	19:00	教職員：送別会（校長先生あいさつ）
10/18 (金)	8:20-8:30	春川高校に到着，送別のあいさつ
	9:00	仁川空港へ出発
	11:30	空港にて昼食
	15:20	出国（大韓航空）
	17:15	関空到着
	18:00	鳥取へ移動
	22:00	鳥取駅到着

4 生徒の感想

1年5組 林 和花

私は海外に行ったことがなく、普段旅行に行くこともあまりないのでこの交流はより一層私を楽しみにさせた。対面式で挨拶をする機会を頂き、約1週間という短い期間でしたが必死に練習しました。日本語にはない発音に戸惑い、決して流暢とは言えない挨拶となってしまったが、西高訪問団、春川高校のみんな皆が温かく拍手をしてくれた。ホームステイ先でお世話になった二年生のパク・ジンヒョさんは『皆、君が何を言いたいかわかったよ。良かった。』と市内を爆走するタクシーの中で私を鼓舞してくれた。

韓国は新しいものがたくさんで、滞在中の四日間はとても濃い時間だった。ステイ先や春川高校で行き苦しさを感じることはなく、むしろ細やかな気遣いが会話や行動の中に垣間見えて安心できた。

言葉こそ伝わらない時が多々あったものの、相手が言いたいことを理解しようとする姿勢が大切であることは万国共通のものかもしれないと思った。わからない時は正直にわからないと伝えれば、別のわかりやすい言葉で身振り手振りも交えて伝えようとする。だから伝わったときは尚更うれしさが増す。それは帰国後も同じだ。メールでやり取りをする中で『?』マークがたくさん画面に上がる。『ここからの意味が分からないな……。これはこういうこと？別の意味かな?』その疑問に答えようと必死になって考える。真っすぐに伝えた分、自分にも真っすぐに帰ってくるので気分が良い、これからも交流を続ける中で伝え、伝えられる関係でありたい。

5 生徒による報告（11月8日成果発表会）





(3) 第2学年 台湾研修旅行実施記録

- 1 日時 令和元年12月3日(火)～12月6日(金) 3泊4日
- 2 旅行先 台湾・台北市近郊
(宿泊地 台北ガーデンホテル)
- 3 目的 ・台湾の歴史を学び、現地を訪問して現在の台湾を直接見聞き、東アジアの未来を志向できる見識を深める。
・集団生活を通して、調和ある人格を形成する。
- 4 参加生徒 第2学年 男子140名、女子139名 計279名
(引率教員 辻中 孝彦 教頭(団長)ほか 計17名)

5 日程概要

3 (火)	6:30 学校発(貸切バス) 10:30 関西国際空港着 12:50 関西国際空港発(CI157便1,2,3,5,6組) 12:55 関西国際空港発(BR131便4,7組) —ここから現地時間(日本時間は現地時間+1時間)— 15:00 桃園国際空港着(CI157便1,2,3,5,6組) 15:05 桃園国際空港着(BR131便4,7組) 16:30 空港発(貸切バス) 17:30 夕食会場着 19:00 台北アイ到着・鑑賞 21:30 ホテル着 就寝
4 (水)	6:00 起床 8:20 ホテル発 8:40～17:10 研修 故宮博物院、孔子廟、保安宮、中正紀念堂 12:00 昼食会場着 17:30 夕食会場着 19:00 ホテル着、就寝
5 (木)	6:00 起床 8:10 ホテル発 9:00 国父紀念館着 9:30 班別自主研修 開始 各班で昼食 16:00～16:30 土産物店集合 17:50 夕食会場着 19:10 ホテル着、就寝
6 (金)	4:15 起床 5:25 ホテル発 6:10 桃園国際空港着 8:10 桃園国際空港発(CI156便1,2,3,5,6組) 8:30 桃園国際空港発(BR132便4,7組) —ここから日本時間— 11:40 関西国際空港着(CI156便1,2,3,5,6組) 11:55 関西国際空港着(BR132便4,7組) 13:00 関西国際空港発(貸切バス) 17:00 学校着

6 研修報告

「東アジアの未来を志向する見識を深めること」「集団生活を通して調和ある人格を形成すること」を目的とする研修旅行を、12月3日から3泊4日の日程で実施した。

パスポート取得、出入国審査など初体験の生徒も多く、「国」という枠組みを強く意識できた。台湾では、故宮博物院、孔子廟、保安宮、中世記念堂など台湾の文化と歴史に触れ、班別研修では、現地大学生とともに台北の街歩きを満喫した。日本と異なる交通事情や食文化、通貨などを体験し、地元の人や他国からの研修旅行生とも交流していた。皆が存分に楽しむと同時に、将来、より国際化した社会を生き抜くための貴重な経験をした。

日常を離れ、制約のある中でともに過ごすことによって、仲間との絆も強まった。普段は他人に頼り切っているように見える生徒も、それなりの自覚を持って行動しており、頼もしく感じた。帰国後には、一歩成長した姿がみられる。この体験を活かし、残り一年の高校生活をそれぞれの将来にとって意味深いものとしてもらいたい。

(4) 高等学校グローバル観光コンテストアウトバウンド部門参加報告

グローバル観光コンテスト 2019 (観光甲子園) アウトバウンド部門に参加した。各校が制作した企画・提案書の審査結果が6月に行われ、全国103件の応募の中上位5組に選ばれ、8月22日から27日にハワイ島で行われた取材旅行に参加し、動画を制作した。動画と決勝大会のプレゼンテーションの結果、表現力、テーマの独自性や社会的な価値が高く評価され、グランプリを受賞した。

①企画・提案書の内容 (抜粋)

現代の若者はハワイ島の本当の魅力を知らない。事前調査によると、若者が最も行ってみたい場所は「ビーチ」である。多くの若者は、白い砂浜や青く透き通った海、にぎやかで観光客が多いといった美しい楽園的なイメージをもつが、それは上辺の魅力に過ぎない。本来の魅力は、先住民の伝統的生活空間であるアフプアアにこそ存在する。未知なる魅力を伝えることによって、現代の私たちに自然との関係性を思い出させ、地球規模の環境問題への関心を高めるための感覚を研ぎ澄ますことができると考えた。

アフプアアには、若者のイメージとは大きく異なるビーチが存在する。溶岩からなる渓谷の麓に広がる白と対照的な漆黒のビーチは、家族単位で過ごす心休まる場所だった。ハワイ島には、アウトリガー・カヌーやタロイモ栽培などの文化が残り、キラウエアやワイピオ渓谷などはアフプアアを感じるのに最適だ。さらに、Aloha精神で先住民の生活に親しみ、理解を深めることは、「責任ある観光」者を育てるなどSDGsの達成に貢献する。このような「アフプアア観光」はこの動きを後押しできる。フラやポイなど多くの伝統文化、山、渓谷、滝や海といった豊かな自然の保全は、私たちに意識変容の機会を与えてくれる。

事前調査によると、「アクティビティをしたい」が81%、「伝統文化に興味がある」が50%であったが、若者と住民双方のニーズに応えるアフプアアについて「知っている」は3%であった。アフプアアは、新しい若者の関心に満ち、住民と共存できる観光の場に成り得る。HAWAIIの自然と伝統文化を融合するアフプアアについて探る旅行計画が私たちの主旨である。世界各地で大切にされてきた伝統的生活空間は今、喪失の危機に瀕しており、現代に生きる私たちは生態系と適応する暮らしを感じ、学ぶことが重要である。アフプアアを知る旅が、若い人々の自然観の変容を喚起するものと確信している。

②ハワイ島視察

渡航の日程は次のとおりであった。

- 8月22日 事前研修、JALバックヤード視察、羽田空港出発
コナ空港到着、ハワイ州立自然エネルギー研究所
カロコ・ホノコハウ国立公園、UCCハワイコナコーヒーエステート
- 8月23日 プウコホラ・ヘイアウ国立公園、ワイピオ溪谷、ホノカアタウン
ハプナビーチ、マウナケアビーチ、マウラナニ・ペトログリフ
- 8月24日 ヒロファーマーズマーケット、太平洋津波博物館
イミロア天文学センター、ハワイ火山国立公園
- 8月25日 コナコーヒー・リビングヒストリーファーム
プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園
アライ・ドライブ、アフエナ・ヘイアウ
- 8月26日 コナ空港出発
- 8月27日 羽田空港到着

視察先の様子は次のとおりである。

③決勝大会

グローバル観光コンテスト 2019（観光甲子園）アウトバウンド部門決勝大会が2020年1月26日に神戸市のポートオアシス神戸で行われた。上位5組、10名の生徒が事前調査、制作意図、現地取材、動画構成と工夫点について5分間のプレゼンテーションと、制作動画の発表を行った。

本校は、「Theater 223 アフプアア～Traveling with you～」をテーマにして、従来のハワイ島と観光に関するイメージ転換を提起する内容で研究発表を行った。先住のハワイアンの伝統文化と自然と適応した暮らしに着目して、現代に暮らす私たちが持続可能性を学ぶ価値のある観光を第一の制作意図とした。第二に、高校生を対象にした事前アンケートの結果から、伝統文化への関心の高さやアクティビティを含む参加・体験型観光への意欲の高さを理由にしたことを挙げた。第三に、アフプアア（伝統的生活空間）に暮らす地元住民の声を基にして、観光と保全のバランスを重視する提案を行った。

動画は、主に予告編と本編から成り立っており、予告編では従来のハワイ観光のイメージを想起させるものを制作し、本編では、アフプアアへの知的なアクセス、地元住民へのインタビュー、アフプアアを旅する様子をハッシュタグによる要点まとめや効果的なセリフにより制作した。

この結果、動画・プレゼンテーション等による表現力やテーマの独自性や高い社会的な価値が評価され、グランプリを受賞した。